

# 届け 世界の果てまでも

令和2年 8月25日  
No. 26  
文責 校長 飯久保一男

## 新任教職員の紹介

たなか みつえ  
田中 光江 先生

2学期より、学力向上のための支援スタッフとして、  
子どもたちの学習指導（主に6年生）に当たります。



## 完璧な大人なんていない

親は子どもの前で完璧な大人である必要はありません。苦手なものは苦手だと言っていいと思います。わからないものはわからないとして構わないと思います。

私は担任をしたときは、最初の授業参観で、実験結果を予想する理科の授業をし、ワザと親が間違えそうな問題を出すことがよくありました。実験結果の予想には親にも手を挙げてもらいました（いやな担任ですよ…。）私の計画通り、多くの親が間違え（案の定、間違えてもらい）、とても盛り上がった授業になりました。そうなんです、大人だって間違えるのです。これをきっかけにして、子どもたちには、

☆ 大人だって間違えるのだから、子どものみんなはどんどん間違えていいんだ  
☆ 間違えることを恐れずにどんどん発言しようぜ

と伝え、**どんな発言でも認め合える学級**をつくろうと訴え、活発に討論できる学級を育てていきました。

子どもが算数の宿題がわからないので教えてほしいと言ってきたらどう答えますか？

- 親①「自分で考えることが大事だよ。」
- 親②「わからないことは、明日、先生に教えてもらうといいよ。」
- 親③「そんな問題も分からないの。」
- 親④「私も算数は苦手だったんだよ。一緒に考えようか。」



このほかにもいろいろな答え方があると思いますが、この場合、③以外は正解だと思います。子どもがいちばん安心するのは、④の親でしょうか。「そうかあ、お父さん（お母さん）も算数が苦手だったんだ」と思うことで、子どもの気持ちがとても楽になると思うのです。

3年生以上の家庭では、親子で過ごすことの多い居間などに**国語辞典**を置いておくことをお勧めします。親子でテレビを見ていて、わからない言葉が出てきたときや、子どもが「〇〇って何？」と聞いてきたとき、親が説明できる言葉であっても簡単に答えずに、子どもに国語辞典をひかせて、または一緒に国語辞典をひいて、その言葉の意味を親子で見ってみるなどできたらいいなあと思います。パソコンやスマホなどを使って検索して一緒に見るなどの方法もあります。親子で過ごしているときに、こんな親子の関係があるとステキだなあと思います。

親が子どもの前で、見栄を張ったり、知ったかぶりをしたりする必要はありません。完璧な大人などいません。カッコワルイ面も子どもに見せたり、わからないことはわからないと言ったり、親の苦手なことを子どもが知っていたり…、そういう中で、子どもも安心して、自分を解放でき、親に悩みを話すことができ、隠しごとなどしない子どもに成長するのだと思います。このことは、教師にもそっくりそのまま同じことがいえます。

ときどき話題になる

国語辞典 があります。

「新明解国語辞典」(三省堂)は、言葉の説明が個性的でおもしろいと話題になる国語辞典です。いわゆる大人用で、小学生用ではなく、中学生～大人が使う国語辞典です。「新明解国語辞典」の中から、いくつかの言葉の説明を紹介します。

校長先生 絶好調!

- 【ダジャレ】 少しも感心できない、つまらないシャレ。
- 【応接】 やって来るものを迎えて、いちいち相手をする事。
- 【右】 アナログ時計の文字盤に向かった時に1時から5時までの表示のある側。
- 【ふりかけ】 それをかければ、おかずなしでもご飯が食べられるように考案した加工食品。
- 【どら猫】 (飼い主がいらないなどで)人の家の台所などをねらい、盗み食いをするずうずうしい猫。
- 【動物園】 生態を公衆に見せ、かたわら保護を加えるためと称し、捕らえて来た多くの鳥獣・魚虫などに対し、狭い空間での生活を余儀なくし、飼い殺しにする、人間中心の施設。



※上記の【動物園】の記述は「第4版」のもので、「第5版」以降は次のように書き換えられています。  
捕らえて来た動物を、人工的環境と規則的な給餌とにより野生から遊離し、動く標本として一般に見せる、啓蒙を兼ねた娯楽施設。

また、例文が個性的なことでも有名です。

- 【一通り】 [例文] 授業は一通りすんだが、まだ帰れない …終わったら早く帰りたいですねえ…。
- 【いちどに】 [例文] いちどにビール1ダースを飲み干した …さすがに1ダースをいちどには…。
- 【焼く】 [例文] ごみを焼く／死体を焼く／民家二棟を焼く …他にも焼く物はあると思いますが…。

次男は「アキヒロ」という名前です。保育園では「アキ」とか「アキちゃん」と呼ばれていました。保育園の先生が「秋の遠足」の連絡をしたとき、子どもたちは「アキの遠足」と勘違いしました。「私も『アキちゃんの遠足』に行っている？」と次男にお願いをする子が続出したそうです。



前号で「感想などをお知らせください」と書いたところ、早速いただいております。ただただで、うれしい限りですが、内容を読ませていただくと、勝手に頬が緩んでしまうもの、思わず目頭が熱くなってしまうものなどなど…ありました。感想やお気づきの点がありましたら、どなたでも、どんどんお知らせください。また、一度といわず、二度三度とお願いできたら幸甚です。

<図>タイムボカンシリーズ「ヤッターマン」より【〇〇もおだてりゃ口にのぼる】